

 同窓会からのあいさつ

慶應義塾大学整形外科 同窓会長 堀内 行雄 (52回)



慶大整形外科同窓会長になり、8年が経過しました。

2017年11月発行のニュースレターの第1号がとても好評でしたので、第2号を発行することになりました。この目的は、慶大整形外科同窓会誌「ふるさと」の発刊は隔年なので発刊の無い年に、このニュースレターを発行することで、情報が1年間空白にならないようにするためです。これにより同窓会のことは勿論のこと、両教授から、1年間の教室の現状と動向、慶應義塾、慶大医学部、日本整形外科学会等の動向などをお示しいただくことが可能になりました。その年の新入会員や新専攻医、秘書のメンバーの変更についても毎年、紹介することも出来ます。「ふるさと」を発行しない年には、是非、このニュースレターをご覧ください。

さて、大谷清前同窓会長(37回)からバトンを託された後、すぐに教室90周年記念式典がありました。その後、2011年の5月に戸山芳昭教授(54回)が横浜で日整会学術総会を開催することになっていましたが、2011年3月11日に東日本大震災があり、すべての準備は既に整っていましたが、戸山教授の英断で一堂に会して日整会総会を開催するのをやめてweb開催となりました。その後、戸山教授は退任し名誉教授になられましたが、2018年5月まで慶應義塾の常任理事として、2018年4月21日に竣工式を迎えた慶應義塾大学新病院棟建設の中心となり、資金集めなどに大いに貢献されました。お疲れさまでした。

慶大整形外科学教室には2015年1月と2月には2人の教授が誕生し、お二人とも華々しい活躍を続けております。松本守雄教授(65回)は、2年間日本整形外科学会副理事長を務めた後に、本年5月より日整会の理事長になられました。慶大から初の日整会理事長の誕生です。任期は2年です。同窓会の皆さんも、是非、ご支援、ご協力をお願いします。そのほかに慶應義塾大学副病院長も2017年8月からされており、そのほかの役職も数多く務めています。日整会理事長の任期が満了した後は日整会学術総会会長もしていただかなければなりません。

中村雅也教授（66回）は、現在、教室の研究担当部門を引き受けておられ、再生医療分野では知らない人がいないくらいの知名度を得ており、iPS細胞を使用した損傷脊髄再生についての研究を岡野栄之慶大生理学教室教授、山中伸弥京大教授の協力で取り組んで来られました。現在、慶應義塾大学医学部では医学部長補佐（2017年10月より）もされています。同様にそのほかの役職も数多く務めています。さらに2022年4月21日～23日に日本脊椎脊髄病学会学術集会を横浜で開催する予定となっています。両教授のますますのご活躍をお祈り申し上げるとともに同窓会は皆で協力しながら可能な限り支援してまいります。

さて、慶應義塾大学医学部整形外科学教室開講100周年は、2022年（令和4年）6月16日になります。記念祝賀会の日取りは、2022年6月11日土曜日にThe Okura Tokyo（ホテルオークラ）で開催することが決まり、キックオフミーティングが、2019年5月24日に開催されました。今後、企画・立案など、教室・同窓会にとって大きな大切な事業となります。同窓会員の皆様の絶大なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

また、この一年間に4人の同窓会員が教授になりました。2019年4月1日には、佐藤和毅先生（68回）が松本秀男教授（57回）の後任として慶大医学部スポーツ医学総合センターの教授に就任しました。同月、宮本健史先生（73回）も宮本先生の母校の熊本大学の主任教授に就任しました。7月には金子慎二郎先生（77回）が藤田医科大学脊椎脊髄科教授に就任し、10月には藤田順之先生（79回）が藤田医科大学の主任教授に就任しています。四人の教授就任は、とてもおめでたいことで、同窓会としても、とても名誉なことです。おめでとうございます。

本年5月には、鎌田修博先生（61回）が日本整形外科勤務医会の会長並びに日本整形外科学会副理事長に就任しました。7月には有野浩司先生（66回）が太田記念病院病院長に就任しました。いずれも同窓として名誉なことであり、各々の立場でますますのご活躍をお祈り申し上げます。

この8年間、同窓会長として新しく行ってきたことで、①襟章の作成と配布、②同窓会員学会開催の援助、③同窓会ホームページ（HP）の維持と充実、④叙勲を受けられた会員や米寿など高齢会員のお祝い、⑤ニュースレターの発行、⑥松本教授発案の同窓会総会と教室公開セミナー、同窓会懇親会を同一の会場で行い、セミナーの演者にも参加していただいて懇親会を始める企画、⑥懇親会時の「関連病院だより」、⑦懇親会時のくじ引き・景品配布、などは続けていきたいと思っています。実は、去年の⑦の企画が一番喜ばれました。佐々木正先生（42回）が、出版された本の解説と景品寄贈をしてくださったことに感謝しております。

慶大整形外科同窓会役員は、佐藤和毅先生が慶大医学部スポーツ医学総合センターの教授になった関係で、教室からの同窓会幹事として原藤健吾専任講師（78回）に幹事に加わっていただき、17人の役員で活動を続けています。役員一同で、更にその他の同窓会活性化策をいろいろと考えておりますが、親睦会が目的の会で役員個人の個人への負担が

大きくなることは、今の役員が交代した時の「負の遺産」となるので、そのようなものではなく、良い方法はないかといろいろ模索し、⑦を企画しました。同窓会員が慶大整形外科同窓会に所属していて良かったと感じていただき、同窓会総会や懇親会などのイベントにも皆に会いに参加したいと思えるような同窓会になることを目指してアイデアを出しあっています。皆さんからも良いアイデアを募集しています。

前回もお伝えしましたが、慶大整形外科同窓会「ふるさと」のHPを2015年2月に井口傑先生（49回）と須田康文幹事（65回）の全面的な協力で立ち上げていただきました。さらに4年前からスマートフォンからでもみられるようにもなりました。同窓会員の開業している地区をマップから探すことができ、また新たにマップ上に自分の病院案内も載せることが出来ます。また、年配の先生には懐かしい今までの教室業績集をPDF化したものも載せています。さらに、このHPを見ていただければ、同窓会のこと、その時点の最新の教室情報も教室協議会報告なども知ることが出来ます。是非お役立てください。

最後になりますが、同窓会会員全員が結集して松本守雄教授と中村雅也教授を盛り上げ支援し、素晴らしい教室・同窓会であり続けたいと思います。それには、両教授ならびにすべての教室員・同窓会員にいろいろな方面での活躍をしていただくことが大切なことですが、同窓会としては、各地区の同窓会関連の集会や同期の集会などから、同窓会に向けて活発なご提案やご助言をいただきたいと思っています。今後とも教室と同窓会が協力して、精進して頑張っていくようにご指導ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。



2018年11月17日ホテルグランドパレスで開催された平成30年度同窓会総会・懇親会

✂ 教室からのあいさつ

慶應義塾大学整形外科 教授・教室主任 **松本 守雄** (65回)



平成27年1月に現在の立場を頂いてから5年弱が経過いたしました。新専門医制度、働き方改革、臨床研究法施行、企業との関係の厳格化など、教室運営上厳しい問題が次々と生じる中、教室員・同窓の先生方のご協力を頂きながら教室運営はほぼ順調に推移していると考えております。この場をお借りいたしましてご支援に感謝を申し上げます。

この1年間の教室内外の出来事について振り返ってみたいと思います。

1) 教室内の活動

この1年間は人事上の慶事が続きました。2019年4月1日に佐藤和毅先生(68回)が松本秀男先生(57回)の後任としてスポーツ医学総合センター教授に就任いたしました。また同月、宮本健史先生(73回)が熊本大学整形外科の主任教授に就任いたしました。7月1日には金子慎二郎先生(77回)が藤田医科大学脊椎脊髄科教授に、また10月1日に藤田順之先生(79回)が同大学整形外科主任教授にそれぞれ就任いたしました。

教室内では4月1日に岡田英次朗先生(80回)、小林秀先生(80回)が専任講師(学部内)、5月1日に渡邊航太先生(76回)が准教授、6月1日に名倉武雄先生(71回)が特任教授、7月1日に八木満先生(78回)、中山ロバート先生(80回)が専任講師にそれぞれ就任しました。また同月、有野浩司先生(66回)が太田記念病院病院院長に就任しております。各先生には心からのお祝いを申し上げるとともに、新しい立場で是非ご活躍頂きたく思っております。

教室の執行部は2019年4月から渡邊航太先生に代わり岩本卓士先生(79回)が教室幹事、岩本卓士先生に代わり小林秀先生が副幹事にそれぞれ就任しました。同月より専修医担当、研修医担当はそれぞれ藤田順之先生、名越慈人先生(81回)が務めておりましたが、藤田順之先生の藤田医科大学教授就任に伴い、10月から名越慈人先生が専修医、鈴木拓先生(83回)が研修医をそれぞれ担当することになりました。また、岩本卓士先生は佐藤和毅先生の後任として手外科班チーフに就任しました。

昨年度の教室の診療および研究業績は以下の通りです。

診療：慶應義塾大学病院における昨年の整形外科手術数は2497件であり、大学病院本院としては日本でも随一の数であり、病院収益にも大きく貢献しております。内容も高度脊柱変形、髄内腫瘍など高難度の手術に加え、頸椎人工椎間板、人工膝関節ロボット手術、椎間板ヘルニア酵素注入療法など新しい医療技術も導入しています。

臨床研究：昨年度の英文論文数は108編、各学会などでの教室員の受賞数は17と2017年度と比較して減少しました。新病院棟移転による臨床負荷の増大などがその背景にある

と思いますが、是非次年度は巻き返しを期待したいと思います。原藤健吾講師（78回）をチーフとして若手スタッフで構成される班横断的研究班は高齢化社会の中で急増している加齢性運動器疾患を全身疾患として捉えて研究を進めてきましたが、今年その成果の一部を英文誌BMC Musculoskeletal Disorders (impact factor 2.0)に発表いたしました (<https://bmcmusculoskeletdisord.biomedcentral.com/articles/10.1186/s12891-019-2788-5>)。

関連病院と大学が一体となり行う多施設研究の成果も上がってきており、国内外の学会や学術誌で研究成果が公表される機会が増えております。前回も書きましたが、関連病院と大学が研究や卒後教育でもより深く結びついていくことは重要であり、研究や教育に力を入れている関連施設により多くの有為な人材を投入していくことが慶大整形全体の発展にとって必要と考えております。

2) 新専門医制度と専攻医・関連病院

2018年度より日本専門医機構による新専門医制度が始まりました。今年は2年目の募集となりましたが、慶應義塾大学で採用された専攻医が11名と例年より大幅に減少しました。ただ、全員非常に優秀でしっかりと研修や病棟業務を行ってくれています。加えて関連施設を基幹施設とするII型プログラムに合計4名（東京医療センター2名、川崎市立川崎病院、静岡赤十字病院各1名）が加わり、慶應関連の専攻医は合計15名になります。プログラムによりあらかじめ定められた施設を4年間ローテーションして、標準的な知識と技能を身につけていきます。プログラム制により教室人事が従来と比較して硬直化しており、教室では独自の人事ソフトを作成して、専攻医の特定施設への集中を避けるなど努力をしておりますが、関連施設の先生方にはご迷惑をおかけする場合もあり、ご容赦をいただければ幸いです。

2020年度からは働き方改革への対応、医師の領域・地域偏在の是正を目指す厚労省の意向を受け、厳格なシーリングが適応され、整形外科では西日本を中心に6府県がシーリングの対象となりました。慶應義塾大学のある東京はシーリングの適応からは外れており影響を受けておりませんが、今後シーリングがかかる可能性は高いと考えられますので、その対応策として埼玉メディカルセンターを新たにII型基幹病院に加えております。

新専門医制度の導入により入局の概念が大きく変わりました。専攻医は4年間の後期研修を終えた後、基本的にフリーハンドとなり、別の大学や市中の病院など自由な選択が行えます。後期研修後に多くの専攻医に正式に入局して貰えるよう、教室としても関連病院とともに有意義な後期研修を提供できるように努力をしたいと思います。

3) 医学部・大学病院

北川雄光病院長が再任され、私も含めた6名の副病院長も全員再任され、病院執行部体制の2期目が2019年10月から始まりました。

2018年5月に開院した新病院棟は順調に稼働し、最近では平均稼働率が90%を超える高稼働を維持しています。また私が副病院長として担当しております手術センターでも手術室増の効果があり手術件数が順調に増加しております。東京オリンピック・パラリンピックが2020年7～8月に行われますが、慶應病院はオリンピックスタジアムに隣接している関係から、スタジアムの医務室にメディカルスタッフを派遣するとともに、会場内

外で不具合を生じた患者の方々に対する対応を行うことが予定されております。マス・ギャザリングにおける医療は特殊な点が多々あることから、担当副病院長として関係部署とともに準備を進めております。

4) 日本整形外科学会

2019年5月の理事会で第13代の日本整形外科学会理事長に選任されました。大変な重責ではありますが、同時に名誉なことと思いますのでしっかりと職責を果たしていきたいと思っております。理事長として①新専門医制度への適切な対応と国民に信頼される専門医の育成、②症例レジストリーシステムの稼働とデータの利活用、③ロコモティブシンドロームのエビデンス構築と認知度の向上、④働き方改革・男女共同参画の推進による整形外科診療の活性化の4つの方針を掲げております。いずれも日整会の今後を担う重要な課題ですので、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。日整会の執行部は理事長と4名の副理事長で構成されていますが、鎌田修博先生（61回）が日本整形外科勤務医会会長として副理事長の1人となり日整会の総務を担当され、日整会の運営を助けていただいております。

日整会関連の会議や海外学会への招待参加などで教室を留守にすることが多くなり、教室スタッフには負担をかけることになり申し訳なく思っておりますが、任期の間よろしくお願ひしたいと思っております。

5) 今後について

現在、医療を取り巻く環境は急速に変化しております。働き方改革は2024年から医師にも適応されますが、勤務時間の上限が960時間、例外的に1860時間となり、どの病院も大きな影響を受けると思っております。慶應病院も働き方改革に対応するように着手しており、残業費の支払い、当直のオンコール制への変更、大学院生の勤務待遇の改善などを行っております。教室も会議、カンファレンス、教授回診などを極力効率化し、勤務時間の短縮に取り組んでいます。

また、前述したように新専門医制度の内容が毎年変わっており、医療の現場は振り回されています。慶大整形としてはII型のプログラムの増設、複雑化する人事に対応するための独自の人事ソフト開発、専攻医勧誘体制の改善など、制度の変更に柔軟に対応できるようにこれまで様々な対策をとってきましたが、引き続き努力を続ける必要があります。幸い、2020年度の慶大整形関連プログラム（I型、II型の合計）への申込者は30名を超える予定であり、これらの効果が表れているものと考えています。

教室は2022年に開講100周年を迎えますが、同窓会とともに準備委員会を立ち上げ、記念式典（2022年6月11日、The Okura Tokyo）や記念誌作成の準備を開始しております。準備の過程で教室・同窓の先生方のご協力を頂くことになろうかと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

以上、教室の過去1年の経緯と現状について記しました。慶大整形が今後さらに発展するよう努力を続けるつもりですので、教室・同窓の先生方には引き続き教室運営へのご支援・ご協力をいただければ幸いです。



時間が経つのは本当に早いもので、戸山芳昭名誉教授からバトンを受けて5年弱になります。過去にない二人教授体制もお互いの強みを活かしながら、教室の運営も順調に推移していると思います。これもひとえに、教室員、同窓会員の皆様のご協力の賜であり、この場を借りて御礼申し上げます。

教室の運営や大学病院・日整会関連は松本教授が書かれると思いますので、私は教室の研究、医学部、塾におけるこの1年間の進捗状況と関連学会の報告をさせていただきます。

1) 教室の基礎研究の現状

整形外科学教室の研究体制は、整形外科運動器科学研究室、総合医科学研究所（リサーチパーク）の生体工学・歩行解析研究室（6N6）、筋代謝・再生研究室（4N8）、脊髄再生研究室（5S7）の4つの研究室からなります。教室の人事異動に伴い体制も幾つか大きな変化がありました。

運動器科学研究室は、これまで宮本健史先生（73回）が中心となって運営してきましたが、今年4月より熊本大学整形外科の主任教授として赴任されたことを受けて、その後は二木康夫准教授（72回）が中心となって運営に当たってくれています。研究内容は、骨代謝、関節軟骨、靭帯など多岐にわたり、学内外の基礎教室、製薬企業、ベンチャー企業等との産学連携で共同研究を進めています。特に、関節軟骨の再生はブタを用いた橋渡し研究でも良好な結果が得られており、近い将来に臨床応用されることを期待しています。さらに靭帯に関しても、従来の自家腱を用いた膝前十字靭帯再建術後の成熟を促進する取り組みや、これまでにない新たな素材を用いた人工靭帯の開発など、興味深い研究が多数行われています。

生体工学・歩行解析研究室は、今年6月に特任教授に就任した名倉武雄先生（71回）が中心となって、放射線診断科の陣崎教授と連携したデジタル画像データとバイオメカ融合、さらに解剖学教室 Clinical Anatomy Laboratoryとも連携した次世代型バイオメカ研究室を運営してくれています。特に、放射線診断科で開発された立位CTや4D-CTにより、これまでは捉えることができなかった上肢、下肢、脊椎の生理的状態での詳細な動きを捉えることが可能となり、研究成果も続々と出てきています。これらの多くのプロジェクトは社会実装を視野に入れて、後述するJKiC (JSR-Keio Innovation Center) の戦略プロジェクトとして展開しており、近い将来に臨床の現場で使用されるものと期待しています。

筋代謝・再生研究室では、佐藤製薬との共同研究契約が一昨年終了し、その後も、歯科口腔外科とともに研究室を継続して運営しています。これまで、藤田順之講師（79

回)が、防衛医大に出向した堀内圭輔先生(73回)とともに運営に当たってくれていましたが、今年10月に藤田先生が藤田医科大学整形外科主任教授として赴任したことを受けて、10月より辻取彦助教(82回)に担当してもらうことに致しました。研究テーマは、これまで行ってきた加齢性筋萎縮症の病態の解明と新たな治療法の開発や、腱板損傷に関するテーマ、椎間板の老化・再生に関する研究など多岐にわたる研究を行っています。

脊髄再生研究室では、脊髄再生医療の実現を目指して橋渡し研究を継続しています。急性期脊髄損傷に対する肝細胞増殖因子の企業主導治験(第1/2相)が終了し、安全性と有効性を示すことができました。現在、有効な治療法がない急性期脊髄損傷に対する新たな治療法として、患者さんに届けるために次のステップに進める準備をしています。第3相試験では、関連病院を含む同窓会の皆様のご協力をお願いするかと思います。その際は何卒宜しくお願い致します。また、亜急性期脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経幹細胞移植に関しては、報道でも取り上げられましたが、本年2月に厚生科学審議会で承認されました。その後、京都大学iPS細胞研究所より臨床用iPS細胞を頂き、神経幹細胞へと分化誘導し、現在品質評価の最終段階です。来年には、国立病院機構村山医療センターと連携して臨床研究を開始する予定です。

これらの研究室が中心となって、数多くの基礎研究の成果が出ており、米国整形外科基礎学術集会や国際幹細胞学会などの国際学会で数多くの授賞をしております。今後も慶應義塾大学整形外科から世界に発信できる基礎研究を数多く出せるように、体制をさらに強化していきたいと思っております。

2) 医学部および慶應義塾における研究の動向

令和元年10月に天谷医学部長が再選され、医学部執行部もこれまでの体制で継続することが決定し、私も学部長補佐として産学医連携・広報を引き続き担当することになりました。また、病院執行部も同様に北川病院長が再選され、現体制で続投することになり、松本教授が引き続き副病院長として病院執行部に参画します。医学部、病院が一体となって信濃町を盛り上げていくことが益々重要になってきます。これまで以上に松本教授と連携しながら進めていきたいと思っております。

① JSR社と慶應医学の融合(JSR-Keio Innovation Center: JKiC)

2017年10月にJKiC共同研究棟が開所されてから約2年が経過しました。基礎と臨床一体型の医学・医療を展開する慶應医学部とライフサイエンス領域を戦略事業と位置づけるJSRとが連携することにより、健康長寿社会を支える新たな診断・治療技術や試料支援技術の確立を目指し研究を推進してきました。

4つの戦略領域の一つであるDesigned Medical Device領域は、整形外科と放射線診断科が中心となり、他の診療科も巻き込みながら、数多くの研究を進めております。この領域の特徴は、JSR社と連携して出口を見据えた事業マネジメントを行い、一日も早い社会実装を目指す点です。名倉特任教授の頑張りや、上肢班・下肢班・脊椎脊髄班から

数多くの臨床応用が間近なプロジェクトが出てきています。なかでも、中島大輔特任助教（87回）が筋肉の質の新たな画像評価技術（速筋と遅筋をMRIで描出できる）を世界に先駆けて開発し、それをコア技術としてグレースイメーシングというベンチャーを立ち上げ、数多くの競争的資金を獲得しており、対外的に高い評価を得ています。整形外科学教室における産学連携のロールモデルとなってくれることを期待しています。

② オープンイノベーション整備事業

昨年、「ふるさと」でも紹介させて頂きました頭記事業の採択を受けて、慶應義塾大学にもイノベーション推進本部が設置され、既に15名の新たな人材が雇用されており、これまで脆弱であった産学連携の支援体制が強化されつつあります。この事業においては、医学部・病院が中心となってプロジェクトを牽引することが期待されており、理工学部と協力して医工連携を今後さらに加速していきたいと思っております。教室員や同窓会員の皆様からのアイデアも大歓迎です。特に臨床の現場のアンメットニーズを解決できるようなシーズがあれば、ご連絡頂ければ積極的に支援させて頂きます。

③ リサーチコンプレックス事業

慶應義塾が国際化への取り組みとして、川崎市殿町に展開する本事業は5年目を迎え、今年度で終了します。慶應義塾大学を中核拠点として、東京大学、東京工業大学、横浜市立大学、東邦大学をはじめ多くの自治体や企業が参画し、創薬、再生医療、ヘルスケア、医療機器・ロボティクスの4つの基盤を形成し、国からも高い評価を頂いています。現在、本事業終了後の殿町キャンパスを中心にした将来設計に関する協議を開始しています。戸山名誉教授が牽引してきた本事業の終了後も、将来の慶應義塾にとって殿町キャンパスがさらなる強みとなるように、確り議論しながら次の大型研究費獲得を目指していきたいと思っております。

3) 関連学会について

日本脊椎脊髄病学会の理事を拝命し4年目になります。今年4月に横浜で開催された第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会において、3年後の2022年に本学術集会を担当させて頂くことが決定致しました。会期は2022年4月21~23日で、横浜パシフィコノースで開催する予定です。教室員並びに同窓会の皆さんには色々とお願ひすることがあるかと存じますが、何卒ご協力の程宜しくお願ひ致します。

また、教室と縁が深い日本脊髄障害医学会と日本末梢神経学会の理事を拝命しており、教室からの基礎と臨床の学会発表を通して次世代を担う人材を育成し、両学会のさらなる発展に尽力していきたいと思っております。

2022年には教室開講100周年という大きな節目を迎えます。慶大整形の次の100年を担えるような人材を育て、医学部や病院、さらには慶應義塾の発展に寄与できるような整形外科学教室にして行きたいと思っております。これまでの教室員、同窓会会員の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、引き続き教室運営へのご理解とご協力の程宜しく御願ひ致します。

慶應義塾大学整形外科 教室幹事 岩本 卓士 (79回)



本年4月より、渡邊航太先生（76回）の後任として慶應義塾大学整形外科教室幹事を拝命した79回生の岩本卓士と申します。この度「慶大整形外科ニュースレター」の場をお借りして、着任の挨拶をさせていただきます。

私は平成12年に慶應義塾大学医学部を卒業して慶應義塾大学整形外科に入局しました。その後、大田原赤十字病院(現那須赤十字病院)、厚生連魚沼病院、小田原市立病院、南多摩病院、静岡市立清水病院に勤務しました。平成16年から2年間は東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センターの桃原茂樹前教授（63回）にご指導いただき関節リウマチの病態形成に關与するサイトカイン、遺伝子変異の研究に従事し、学位をいただきました。その後も平成20年から4年間、同リウマチ痛風センターで関節リウマチの上肢機能障害の治療に従事し、平成24年に慶應義塾大学整形外科に帰室させていただきました。帰室後は研修医担当、学生教育担当、教室会計、教室副幹事という教室内での役職を経て、学生および医師の教育、教室という組織の運営の重要性、難しさを感じてきました。この度、教室幹事という大役を拝命いたしました。これまでの経験を活かして、300名以上の教室員を抱える大きな組織の運営を滞りなく行うよう努力いたします。

先生方もご存じのように、日本専門医機構による新専門医制度が発足し3年目となりました。毎年のプログラム応募者数が一定でないことから、4年間のプログラムを決めることは容易な作業ではなく、複雑なパズルのような人員配置と日々格闘しております。魅力的なプログラムを作成することで多くの専攻医を獲得することは当然の課題ですが、今後医師の獲得に向けてさらに取り組むべき課題は女性医師のキャリア形成と専攻医プログラム修了後のスキルアップと考えます。経済協力開発機構（OECD）の統計によると世界的に女性医師の割合は上昇傾向であり、日本においても近年若年層の女性医師は増加しており医学部入学者に占める割合は約3分の1とされております。日本ではいまだに社会的な役割分業意識が強いために、女性医師が育児を行いながら働ける環境を意識しますが、根本的には女性医師に限らず男性医師も育児に参加できる労働環境を考えるべき時代であると考えます。また専攻医修了後も慶應義塾大学整形外科学教室に所属することで、サブスペシャリティの高いスキルを獲得できると感じてもらえるよう、大学および関連病院におかれましてもご指導いただければ幸いです。

医局長に就任した際に、これまで医局長をお務めになった先生方から様々なアドバイスをいただきました。最も多くいただいたアドバイスがくれぐれも体を壊さないように、という温かいお言葉でした。私にこの大きな整形外科学教室の運営が務まるか不安ではありますが、得難い貴重な経験と考えております。副医局長の小林秀先生（80回）と共に協力して精一杯努力したいと思っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

慶應義塾大学整形外科 同窓会担当 **原藤 健吾 (78回)**



これまで専攻医担当主任として3年間務めさせていただきましたが、2019年4月よりスポーツ医学総合センターの教授になられた佐藤和毅先生（68回）の後任として、教室の同窓会幹事を拝命しました。

毎年の同窓会幹事会や総会・懇親会の資料作成や当日の議事進行など大切な仕事が沢山ありますが、不慣れなため至らぬ点も多々あるかと思えます。教室と同窓会の橋渡しとして努力して参りたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

私は、1999年（平成11年）に慶應義塾大学医学部を卒業し、整形外科に入局いたしました。その後、埼玉社会保険病院（現埼玉メディカルセンター）、済生会神奈川県病院、慶應義塾大学月ヶ瀬リハビリテーションセンター、済生会横浜市南部病院を経てチーフレジデントとして帰室いたしました。その後カナダのウエスタンオンタリオ大学に短期留学し、帰国後に東京都保健医療公社大久保病院、国立栃木病院（現栃木医療センター）、国際医療福祉大学三田病院、川崎市立川崎病院を経て、2014年4月より膝班スタッフとして帰室いたしました。本年で帰室後6年目になりますが、まだまだ教室での仕事よりも関連病院にお世話になった年月の方がはるかに長い状況です。これまでにお世話になった同窓の諸先輩方や後輩たちのためにも同窓会幹事として努力して参ります。

来る2022年6月16日に、慶應義塾大学医学部整形外科学教室開講100周年を迎えます。記念祝賀会は、2022年6月11日土曜日にThe Okura Tokyo（ホテルオークラ東京）で開催される予定です。実行委員会による第1回キックオフミーティングが2019年5月24日に、第2回が10月4日に開催されました。100周年に向けた記念誌やDVD作成、記念品の選定、また記念祝賀会当日のスケジュールなど、徐々にではありますが、内容を考えております。記念祝賀会の企画に関しては、教室・同窓会にとって大切な事業となります。何かご意見がございましたらご連絡いただけますと幸いです。同窓会員の先生方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

✂ 研修プログラム参加者の紹介



あいばら ゆうき

相原 佑貴

生年月日 1991年12月3日

出身大学 慶應義塾大学

2019年度整形外科レジデントの相原佑貴です。愛媛県出身、学生時代は空手部に所属し、ギターサークルや飛行機クラブなど趣味もとことんやり込めました。医学部卒業後は沖縄県の地域病院での初期研修を経て、毎日山のように救

急外来に運ばれてくる整形外科疾患の患者を目の当たりにし、医療における整形外科の重要性とやりがいを実感。外傷のみならず、新生児から高齢者まで、人生の全てのステージで患者さんの全身を診ることができるところに魅力を感じ、整形外科医となる道を選びました。素晴らしい先輩方のもと、母校のプログラムで専攻医研修を始められることをとても誇りに思うと同時に、慶應の名に恥じぬよう、精一杯努力していきたいと思えます。



いちはら ゆういちろう

市原 雄一郎

生年月日 1989年1月4日

出身大学 島根大学

令和元年度新専攻医の市原雄一郎と申します。初期臨床研修を1年目川崎市立川崎病院、2年目慶應義塾大学病院で行いました。幼い頃から器械体操を行っており、怪我との接点が多かったことから、学生時代より整形外科に興味があり

ました。半年間整形外科医として働く中で、患者さんのQOLを左右する整形外科にとっても魅力を感じております。臨床・研究ともに日本の最前線である慶應義塾大学整形外科で学ばせていただくことを、とても誇りに思えます。精一杯頑張っ参りたいと思いますので、御指導・御鞭撻の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



いまもと たけおみ

今本 多計臣

生年月日 1989年9月23日

出身大学 聖マリアンナ医科大学

川崎市立病院 II型プログラム専攻医 1年の今本多計臣と申します。大学の臨床実習で整形外科の手術を初めて見学した際、感銘を受けて整形外科医を志しました。6年次に川崎病院の整形外科を見学させていただき、手術の面白さだけでなく、

先生方の造詣の深さや人となりに憧れ、初期研修医として2年間を過ごしました。その時の気持ちは未だ変わっておらず、専攻医として働かせて頂いております。慶應整形医局員の先生方のように少しでも知識をつけ、患者に還元していけるように、そして先生方からして頂いてきたことを今後後輩にも伝えられるような整形外科医となれるよう尽力致します。今後とも御指導御鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。



おおがき りょう

大垣 瞭

生年月日 1991年9月2日

出身大学 山口大学

令和元年度新専攻医の大垣瞭と申します。整形外科1年目として多くの症例を学び、吸収していきたいと思っております。大学時代は空手道部に所属しておりました。小学生の頃から空手を継続しており、大学時代には西医大で優勝することもできました。空手道にかけた情熱をこれからの医療に生かしていきたいと強く考えています。学生時代には研究活動にも取り組んでおり、大学3年時には慶應義塾大学病院循環器内科でES細胞からの心筋再生を約半年間学ばせていただきました。研究活動を通して研究の楽しさ・厳しさを学ぶことができました。まだまだ未熟者ではありますが、一生懸命努力いたしますので指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

令和元年度新専攻医の大垣瞭と申します。整形外科1年目として多くの症例を学び、吸収していきたいと思っております。大学時代は空手道部に所属しておりました。小学生の頃から空手を継続しており、大学時代には西医大で優勝することもできました。空手道にかけた情熱をこれからの医療に生かしていきたいと強く考えています。学生時代には研究活動にも取り組んでおり、大学3年時には慶應義塾大学病院循環器内科でES細胞からの心筋再生を約半年間学ばせていただきました。研究活動を通して研究の楽しさ・厳しさを学ぶことができました。まだまだ未熟者ではありますが、一生懸命努力いたしますので指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



おの たくみ

小野 匠

生年月日 1991年9月12日

出身大学 日本医科大学

2019年度新専攻医の小野匠と申します。出身大学は日本医科大学でバレー部・競技スキー部に所属しておりました。初期研修は東京臨海病院で2年間研修を行いました。学生の頃より外科系の道に進みたいと考えておりましたが、初期研修で整形外科を回り、これほど手術が患者さんのQOLに直結している科はないと実感し、また雰囲気の良いさも魅力となり整形外科医になろうと決心いたしました。現在、働き始めて半年ほど経ちますが、改めて慶應義塾大学整形外科を選んで良かったと実感しております。整形外科医としてまだまだ未熟者ですが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

2019年度新専攻医の小野匠と申します。出身大学は日本医科大学でバレー部・競技スキー部に所属しておりました。初期研修は東京臨海病院で2年間研修を行いました。学生の頃より外科系の道に進みたいと考えておりましたが、初期研修で整形外科を回り、これほど手術が患者さんのQOLに直結している科はないと実感し、また雰囲気の良いさも魅力となり整形外科医になろうと決心いたしました。現在、働き始めて半年ほど経ちますが、改めて慶應義塾大学整形外科を選んで良かったと実感しております。整形外科医としてまだまだ未熟者ですが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



すじの あさひ

筋野 朝陽

生年月日 1989年8月3日

出身大学 東京医科大学

令和元年新専攻医の筋野朝陽と申します。高校は野球部、大学はアメリカンフットボール部に所属しており整形外科へ通院することが多く、整形外科は馴染みの深い科の1つでありました。初期研修で手術によって患者様のADL向上に貢献している様子を拝見しまして、整形外科入局を決めました。まだまだ未熟な点が多く、ご迷惑をかけることがあると思いますが何卒宜しくお願い申し上げます。

令和元年新専攻医の筋野朝陽と申します。高校は野球部、大学はアメリカンフットボール部に所属しており整形外科へ通院することが多く、整形外科は馴染みの深い科の1つでありました。初期研修で手術によって患者様のADL向上に貢献している様子を拝見しまして、整形外科入局を決めました。まだまだ未熟な点が多く、ご迷惑をかけることがあると思いますが何卒宜しくお願い申し上げます。



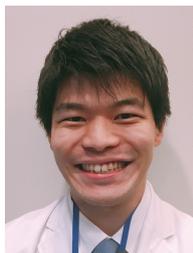
たけのした しんいち

竹之下 真一

生年月日 1986年12月25日

出身大学 東京医科歯科大学

令和元年慶應専攻医プログラムでお世話になります竹之下真一と申します。私は東京医科歯科大学病院で初期研修を行った後、臨床を離れ疫学を勉強していました。久しぶりの臨床で迷惑をかけないかと不安でしたが、周りに支えてもらい毎日頑張っています。今年は11名と少ない新専攻医ですが同期の距離は近く皆で切磋琢磨し楽しく整形外科医としての一步を踏み出しています。整形外科は非常に広い臨床範囲をカバーしていますので、積極的に経験・知識吸収できるように日々精進致します。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



たなか けんたろう

田中 健太郎

生年月日 1992年7月3日

出身大学 慶應義塾大学

令和元年度新専攻医の田中健太郎と申します。出身は慶應義塾大学で学生時代は水泳部に所属しておりました。初期臨床研修は栃木県の佐野厚生総合病院で行い、本年度から入局させていただき、現在慶應義塾大学病院でレジデントとして勉強させていただいております。中学、高校時代はバスケットボールをしており、大学は水泳、社会人ではフルマラソンに挑戦しております。学生時代からスポーツが好きで、将来はスポーツに関わる仕事がしたいと考え整形外科に入局させていただきました。先輩方から沢山のものを吸収させていただき、一早く一人前の整形外科医になりたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



ふくい けんいちろう

福井 健一郎

生年月日 1990年4月8日

出身大学 東邦大学

令和元年度新専攻医の福井健一郎と申します。学生時代は水泳部に所属し、6年間部活動に従事してきました。卒業後は足利赤十字病院で2年間の研修を経て、慶應義塾大学整形外科学教室で専攻させていただくことになりました。初期研修2年間の中では整形外科を4ヶ月まわらせていただき、外傷をメインに多くのことを学ばせていただきました。僕はお世辞にも要領がいい方ではないので、大学時代に培った体力とバイタリティーを生かし、積極的に臨床に関わることで先輩方のお力になればと思っております。まだまだ未熟者ではありますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。



まつもと ゆうき

松本 雄暉

生年月日 1992年4月26日

出身大学 慶應義塾大学

2019年度新専攻医の松本雄暉と申します。出身大学は慶應義塾大学で、水泳部で活動しておりました。卒業後は足利赤十字病院で初期研修を、現在は慶應義塾大学病院レジデントとして働かせて頂いております。私が整形外科を志した理由は、患者さんのQOLを改善させることで人生を豊かにできることに、憧れを抱いたからです。患者さんに元気を与えられるような整形外科医を目指していきたいです。これから整形外科医として、たくさんの経験を積めるよう、頑張っ参ります。ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

2019年度新専攻医の松本雄暉と申します。出身大学は慶應義塾大学で、水泳部で活動しておりました。卒業後は足利赤十字病院で初期研修を、現在は慶應義塾大学病院レジデントとして働かせて頂いております。私が整形外科を志した理由は、患者さんのQOLを改善させることで人生を豊かにできることに、憧れを抱いたからです。患者さんに元気を与えられるような整形外科医を目指していきたいです。これから整形外科医として、たくさんの経験を積めるよう、頑張っ参ります。ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。



まつもと ゆうき

松本 侑樹

生年月日 1992年7月20日

出身大学 順天堂大学

2019年新専攻医の松本侑樹と申します。静岡赤十字病院で2年間初期研修医として研鑽を積ませていただき、現在は慶應義塾大学整形外科のII型研修として引き続き静岡赤十字病院に勤務しております。初診から手術および術後管理を学ぶとともに、臨床で経験した症例を元に学会発表と論文作成を御指導頂き、充実した日々を過ごしております。大学時代は陸上部に所属しており、走り高跳びを専門種目としておりました。腕をあまり使わない競技だったため術中や整復時に己の上腕の非力さを痛感する昨今です。大学病院には後期研修医4年目より務めさせていただきます。その際は御指導御鞭撻の程よろしくお願いいたします。

2019年新専攻医の松本侑樹と申します。静岡赤十字病院で2年間初期研修医として研鑽を積ませていただき、現在は慶應義塾大学整形外科のII型研修として引き続き静岡赤十字病院に勤務しております。初診から手術および術後管理を学ぶとともに、臨床で経験した症例を元に学会発表と論文作成を御指導頂き、充実した日々を過ごしております。大学時代は陸上部に所属しており、走り高跳びを専門種目としておりました。腕をあまり使わない競技だったため術中や整復時に己の上腕の非力さを痛感する昨今です。大学病院には後期研修医4年目より務めさせていただきます。その際は御指導御鞭撻の程よろしくお願いいたします。



みずま つよし

水間 毅

生年月日 1992年10月2日

出身大学 慶應義塾大学

96回生の水間毅と申します。現在は大学病院に勤務しております。同期の人数は少なく業務は大変ですが、助け合いながら濃い後期研修生活を送っております。学生の時は弓道部に所属しておりました。部活で何か怪我をしたり整形外科にお世話になることもなく、学生時代は整形外科に入局するなんて想像もつきませんでした。元々は麻酔科領域で患者さんのQOLを上げたり、痛みを取り除いたりできればと考えておりましたが、初期研修先の井田病院での先生方との出会いを通じて整形外科の魅力を知り、入局を決めました。未熟者ですが、慶應整形外科の名に恥じないような医師になれるよう精進致します。御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

96回生の水間毅と申します。現在は大学病院に勤務しております。同期の人数は少なく業務は大変ですが、助け合いながら濃い後期研修生活を送っております。学生の時は弓道部に所属しておりました。部活で何か怪我をしたり整形外科にお世話になることもなく、学生時代は整形外科に入局するなんて想像もつきませんでした。元々は麻酔科領域で患者さんのQOLを上げたり、痛みを取り除いたりできればと考えておりましたが、初期研修先の井田病院での先生方との出会いを通じて整形外科の魅力を知り、入局を決めました。未熟者ですが、慶應整形外科の名に恥じないような医師になれるよう精進致します。御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



みわ ゆうき

三輪 祐揮

生年月日 1991年7月8日

出身大学 慶應義塾大学

令和元年度新専攻医の三輪祐揮と申します。学生時代は筋トレとアメリカンフットボールに励んでおりました。学生時代のトレーニングの影響で筋肉が好きになり、整形外科を考えるようになりました。現在の趣味は年に1回の海外旅行

です。診断から治療後のフォローまで、小児から高齢者まで、外傷から慢性疾患までと全てが整形外科で完結するところに魅力を感じております。これから多くのことを学び、手術の腕を磨き、患者様に還元できるように精進して参りたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

✂ 秘書紹介

	担当	メールアドレス
• 種岡 扶佐子	松本教授室	fusako.t@keio.jp
• 武藤 愛	中村教授室	a.muto62342@gmail.com
• 劔持 悠子	医局（同窓会担当）	y.kemmochi@keio.jp
• 木田 彩香	医局	ayakakida112@yahoo.co.jp
• 鈴木 理紗	医局	risasuzuki@keio.jp
• 林 綾子	医局（業績担当）	ayako@z2.keio.jp
• 山西 由佳利	脊椎班	keiospine@gmail.com
• 宮崎 真規子	脊椎班	makikomiyazaki01@gmail.com
• 笠井 朋子	脊椎班	kasai.keiospine@keio.jp
• 鹿島 美由紀	上肢班 / 股関節班	hand.kashima@gmail.com
• 藤原 絵美子	膝班	okime.emiko.fujiwara@gmail.com
• 鈴木 真愛	腫瘍班 / 股関節班	makamomo33@yahoo.co.jp
• 新井 紘子	バイオメカ	arai_h@keio.jp
• 山下 朱美	JKiC	sumi@a5.keio.jp

編集後記

第2号となる慶大整形外科ニュースレター2019が無事完成いたしました。このニュースレターはまだ歴史が浅く、内容を手探りで作成しているのが現状です。

「慶大整形外科ニュースレター」「ふるさと」「開講100周年記念誌」に掲載する内容に関して ご意見やアドバイス等ありましたら、私松村までご連絡いただければ幸いです (noboru18@gmail.com)。どうぞよろしく願いいたします。

松村 昇 (81回)